

平成29年6月1日(木)

老球の細道331号

5月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今月のモットーは「体調を“気にする”ことを気にしない」であったが、逆に「気にしない」ことを気にしたために、前半は今までになく血圧高めになり、後半は風邪状態が長引いてしまった。それに輪をかけ講習会、クリニックの仕事が不調で自己嫌悪に陥った。まだまだ不健康、不満足だから明日への意欲がわいてくるのかもしれない。

1・ある時ふと

- ◆「何かおかしいと感じたら声を上げることを恐れてはいけない」(フレッド・コレマツ・日系二世強制収容所)

太平洋戦争時カリフォルニア州に住む日系人が強制収容所に移住させられた。その時に異を唱えたのが日系二世のフレッド・コレマツ氏。今アメリカではトランプ氏の人種差別発言の中で、コレマツ氏が時代を越えて脚光をあびていることをBSドキュメンタリーで放映していた。小さなこと、小さな場所においてもこの心意気を忘れてはいけない。

2・読書から

- ◆「病があったとしても、自分のやりたいことが自分の許容範囲であれば、健康である」
〈米山公啓『健康という病』集英社新書〉

人間は不健康であることが普通である。健康は、自分が健康であると自覚するしか方法はない。絶対的な健康などありえない。人は皆いつの日か必ず死ぬ。

- ◆「本当におれは幸せなのであろうか。幸せなんて結局たいしたことではなくて、無事にその日を過ぎる、できれば少しは楽しく。それが重なっていけばいい、ということなのか」
〈城山三郎『勇者は語らず』新潮社〉

今まで幸せだなあと感じたのは「汗をかいた後のビール」「読書の後のコーヒー」「努力の後の勝利」などで、一息ついたり、達成感を感じたりした時だった。

- ◆「日本のジュニアは強いが、シニアになると通用しなくなるのは、指示通り動くプレイヤーを育成し、意思決定して動くプレイヤーを育成していないのが原因」

〈『コーチングクリニック』ベースボールマガジン社〉

勝つことより楽しむことを教える。楽しむことができる選手は自分で意思決定し、工夫することを学習する。楽しいからいつまでも競技を続ける。そして大器晩成する。

3・新聞等のコラムから

- ◆「テレビ出身の人は歩幅はどうしても狭くなるんですが、映画の人の歩幅は大きいんです」(朝日新聞・折々のことば・松方弘樹)

どんな仕事に就くときもスケールというものが大事だという。できることだけをコツコツとこなすより、とても無理だということに挑むほうが将来を考えると大きく成長できる。目指すは超一流。コーチがそう思わないと選手はこじんまりと育って終わってしまう。

- ◆「足音が畑の肥料になる」(朝日新聞・折々のことば・ある父親)

畑の作物に対する愛情は農夫の足音(足跡)。公認コーチの講習会で「コーチの愛情」について必ず話すエピソードである。コーチの選手、チームに対する愛情は、コートに足繁く通い、コート、選手と一緒にいる時間をできるだけ多く作ることだと私は思う。